

通番	日付	場所	当日のご意見及びご質問(要約)	本市の回答(要約)
1	11/13(土)	桜台市民センター	施設老朽化、子どもの減少、財政事情が再編の理由と認識。11月広報では市の財政状況は単年度黒字である。財政事情が理由というのは根拠として受け入れがたい。	子育て環境に対する課題として保育所での待機児童、幼稚園の小規模化があります。単に市の財政状況が赤字、黒字だからという考え方で進めるべきではないと考えています。今後も単年度の収支は黒字となる可能性はありますが、全ての市立施設を将来的に賄っていくのは非常に厳しいのは事実です。単純に単年度の収支が良いからといって、施設数をそのまましておくのは、将来に対して如何なものかと考えています。まずは子育て環境の充実ということをご理解いただきたいと考えています。 たまたま令和2年度決算は黒字となっています。しかし岸和田市は負債を抱え、また経常収支比率も理想の70～80%には程遠い状態です。今回は新型コロナウイルス感染症の関係で、国から補助金が入ってきたということで救われた面もあります。市有財産も積極的に売却していますが、令和8年には枯渇する状況です。引き続き、厳しい財政運営を余儀なくされるのは覚悟しないといけないと、担当部局から説明を受けています。
2	11/13(土)	桜台市民センター	岸和田の子どものためと答弁されているが、保育所と幼稚園は設立の目的が違うため認定こども園にするのは無理があると思う。子どものためではなく、経済的なことを考えた大人の理屈ではないか。	保育所は子育て支援のため、幼稚園は幼児教育の推進のための機関であって、認定こども園に変えていくのは教育の後退ではないのかという趣旨と理解しました。認定こども園という制度は馴染みがないので、市民の方が不安に思うのは当然です。今まで、市立幼稚園は他市にも誇れるような教育を展開してきました。むしろ2号認定(保育)の子どもたちにも、岸和田市の幼児教育を進めていこうという考えです。その伝統やノウハウを、新たにできる市立・民間認定こども園にもしっかりと生かし、岸和田の良き幼児教育を、引き続きしっかりと継承、発展していく決意で教育委員会としては臨んでいきたいと考えています。
3	11/13(土)	桜台市民センター	子どもの数が減ると強調されているが、市として増やす努力をしているのか。減ったから潰すというような後ろ向きな考えではなく、若い世代に対して予算を計上し、教育・子育てしやすいまちにするような前向きな考え方をしたい。泉州山手線の開通で沿線での人口増加、子どもの増加も見込まれるので、この計画は見直されるべきではないか。	様々な行政計画で本市の人口ビジョン等に基づいて活性化対策をしています。今後、丘陵地区・泉州山手線沿いでの宅地開発を進めることで、流入人口増を図っていく必要があります。再編に取り組むにあたり、若い世代を呼び込む策を若い世代のためにも進めていきたいと考えています。当然に人口増加地域があれば、柔軟に対応できるような考え方をしています。認定こども園の設置数については確定したものではありません。 人口増加対策のインフラ整備はどの市町村でも行っている中で、全体的な人口減少の中、人口増加に対する取組みをしないと、都市間競争に負けてしまいます。その中で、岸和田市として着目しているのは子育て、教育です。市の人口が1万人以上減っている原因として、若い世代が子育て・教育について問題意識を持たれ、よりふさわしい市町村に転出しているのではないかと推測・分析をしています。そのため、子育て・教育の施策の充実が非常に大事であります。岸和田市の教育を益々高め、保育環境を向上させることで、安心して子育て・教育ができる市になれば、今まで流出していた若い世代が増える大きな力になるのではないかと考えています。
4	11/13(土)	桜台市民センター	150～200人のマンモス園になることで、園全体を把握できなくなることが心配。保育所は子育ての場で、園全体で子どもたちを育てているという感覚だが、認定こども園になることでそういった雰囲気なくなる。現在、岸和田市の市立保育所は1歳児4人に対し保育士1名、国の基準は6対1である。監査では問題ないが、現場の意見としては4対1が望ましい。民間園では難しいのではないか。また、幼稚園と保育所の良いところをうまく合体することはできるのか。市立園を希望する保護者にとっては民間園となることは納得がいかないと思う。	民間園でも市立園と同じ様に幼児教育をしっかりと進めていただくことが大事であると思います。仮に、新たにできる認定こども園で、保育・幼児教育において課題になる点があれば、大阪府と連携し、監査・指導を通じて教育・保育の質を担保していきたいと思っています。市立園にできることが、民間園においてできないということはないと考えています。
5	11/13(土)	桜台市民センター	子どもが減少している幼稚園に関しては、集团的規模を考えると改善しないといけないと思う。財政的に民間園にすることで国からの補助があり、市の負担が減るといった考えもわかるが、子どもを育てるためのお金を削るといった考えはおかしい。	ご意見として承ります。
6	11/13(土)	桜台市民センター	園区制をなくすことについて、通学校区内の幼稚園に通うことで小学校との交流ができています。再編で通学校区の市立幼稚園がなくなることで、遠くの園へ行かなければならないことにならないのか。再編によって市立園が減り民間園が大幅に増えるが、どうお考えか。	市立幼稚園及び保育所の再編を進めていく中で、23園ある市立幼稚園が閉園し、認定こども園になる所があります。その校区のお子様も市立幼稚園を希望する場合は、通園できる幼稚園が無くなるので、この機会に市内全域の園区制を廃止しました。再編による要因もありますが、保護者の利便性・選択肢を増やすという面もあります。令和4年度より園区制はなくなりませんが、あくまで自由に選べるので、現在の校区を離れ、遠くの園に行かなければならないということはありません。再編で新たに設置される市立・民間認定こども園、幼稚園、保育所等、たくさんの中から保護者の方が選べるようになります。 同一の敷地内に小学校と幼稚園があり、連携がし易いのは事実ですが、現在でも岸城幼稚園等の独立園でしっかりと小学校との接続を見通した幼児教育を展開している園もあります。必ず同一の敷地、近接地でなければ接続ができないというわけではありません。他の市町村でも教育実績は上げられています。それ以上に大きな目的として、小規模化による弊害は放ってはおりません。今、この課題を先送りにすると、将来の子どもたちに大きな禍根を残すと考えていますので、再編の取組みは進めなければならないと思っています。市民の方が幼稚園と小学校の接続について不安を抱かれないように、しっかりと力を入れてまいります。ただ、岸和田市の市立幼稚園は、これまで障害のある子どもたちに対する幼児教育に力をいれてきた、という優位性がありますので、地域(3次生活圏)ごとに市立認定こども園を1園ずつしっかりと残していき、その市立認定こども園から、地域の民間園にそのノウハウをしっかりと伝えいくことで、市立認定こども園の役割を果たしていけるよう努力してまいります。
7	11/13(土)	桜台市民センター	保育所は、子ども同士の関わり合いや保育士と保護者の関係が密であると思う。孫が民間こども園に通ったが、幼稚園の子どもが入園される時には連絡帳のやり取りもなくなってしまった。幼稚園に合わせる時間割になり、自由遊びも幼稚園の子どもが帰ってからのお迎えまでの間になった。民間園になると保育料以外にも費用が掛かり、色々なカリキュラム等で塾化してしまわないか心配。	施設を集約するので、人数は増え、施設数が減るので距離が遠くなるのが発生します。色々な心配をいただいている部分については、集約することによって生まれる経済的な効果で還元できるものが無いかも合わせて、今後この再編計画を進めて検討していきたいと思っています。これからもご意見・ご要望をお聞きし、対応策を今後検討していきたいと考えています。市立認定こども園ができた時には、引き続き研究し、努力していきたいと思っています。
8	11/13(土)	桜台市民センター	子どもを増やす努力について、住宅、教育以外に具体的な増やすための施策を教えてください。例えば、明石市は子ども施策を充実させている。保育士採用のために、家賃の補助、給与の改善を行うことで職員が増えた。結果、若い世代が増え、税収も増えた。保育士不足の状態が続いていますが、どうお考えですか。計画が立てられたのはコロナ前である。幼稚園・保育所の規模が現在より大きくなるが、コロナ禍においてどうお考えか。人数を考え直すことはないのか。	再編を進めていく中での保育士確保については、全国的にも、市内の就学前児童施設でも市立・民間問わず抱えている問題です。岸和田市では、令和3年度より民間園への保育士確保のための補助制度を創設しました。具体的には民間園に令和3年4月以降、新たに就職され、2年間継続して在職していただいた方に応援給付金を給付するものです。それ以外にも目標・基準の有給休暇を取得していただいた場合に、補助金を交付するというようなインセンティブが働く補助金、保育士を確保できない場合、周辺業務をしていただくための補助人員雇上げに対する補助金、潜在保育士を就労に繋げるために施設での体験・慣らしを進めるための補助金を、現在実施しています。 市立保育所の保育士は、公務員になりますので一定の待遇は決まっていますが、欠員が出た場合は、担当部局と協議し、その確保に努めております。非正規職員の雇用条件の改善についても、民間園の補助制度が充実されると同時に充実しなければならないと思っています。現在その待遇改善に向け、取り組んでいるところです。

通番	日付	場所	当日のご意見及びご質問(要約)	本市の回答(要約)
9	11月13日(土)	桜台市民センター	保育所の待機児童が問題だと言うが、幼稚園難民が出ているという現状は認識されているのか。1号で入ることが難しい。幼稚園の子どもがどうなるのか不安。市立認定こども園にはバスはあるのか。車がない家庭は選べる園が無くなってしまふ。広い地域に1園あると言われても通えない。また認定こども園なので2歳児までに定員が埋まってしまうため、3歳児からの入園の1号認定枠がない。計画後、市立幼稚園に通えなかったら困るので、他市の幼稚園に子どもを入園させている。1号認定枠では入れないので、3号認定からと言われた。結果、仕事を増やさないといけない現状となる。住んでいる地域には2園しか幼稚園がない。幼稚園離れが進んでいて、3歳から入園できる場所を探し始めるので車がなければバス、自転車では通えない。	今ある幼稚園を、一度に地域(3次生活圏)ごとに1園に集約するというものではありません。今お示している再編計画は、現時点での入所児童数をみて、計画したものです。 また岸和田市の民間認定こども園の現状ですが、1号認定枠は3歳からですが、2歳から3歳への設定枠はどの認定こども園でも、新しいお子様が入園できるように一定数増やしています。今の時期は埋まっていますが、比較的3・4・5歳は入りやすい状況にあります。これから設置していく市立認定こども園の定員設定は、十分配慮する必要があると考えています。
10	11/13(土)	桜台市民センター	市立幼稚園が小学校に併設されていることで、小学校との交流ができ小1プロブレムの問題の解消に取り組んでいる。“必ずしも併設は必須でない”と言われるが、併設されていることでの子どもにとっての様々なメリット(交流、通園練習等)をどのように保証するのか。また民間園が増えている中で、様々な問題点、課題は出てきていませんか。経営者・方針が変わったり、又、何年かに一度の監査では掴みきれない問題はありませんか。未然に防ぐための取り組みはありますか。他市での問題点等が検証されていますか。マンモス園化することで、子ども自身の安心感が失われると思う。安心感があってからの色々な教育に関する取組みだと思ふ。課題のある子どもさんがいなくても、関わってもらえずに小学校に上がってしまうことが学級崩壊等に繋がっており、教育意識の高い方は他市に魅力を感じ、流出すると思ふ。	幼稚園と小学校が併設していることでの優位性はありますが、24の小学校全てに幼稚園を併設するとすると、現在の子どもの数からすると、幼稚園はますます小規模化してしまいます。現在、児童数が10人以下の幼稚園が出てきており、集団的な学びを身に付けることができなくなるという、大きな教育上の課題が生じる恐れがあります。他の幼稚園に週に何回か通って集団活動をしている、というようなことも事実です。一定の再編で、施設数がある程度絞り込んだ上で、集団規模を確保することが必要と考えています。そうすると、併設という優位性が失われる可能性があるため、そこをどうカバーするかが、我々に課せられた教育の課題であります。小学校と幼稚園が併設しているのと同様に、密接に関わるような取組みを、今後進めていきたいと思っています。 また学力向上の問題については大きな課題です。実際のところ、学校だけでは解決できません。家庭環境・地域の問題もあり、市・教育委員会をあげて取り組まないといけない問題です。幼稚園と小学校の連携により小1プロブレムを無くし、小学校と中学校の一貫教育により中1ギャップを無くしていく取組みを検討しています。教育でできることをしっかりとやっていき、岸和田の教育を向上・安定させる努力をしています。転出される状況を見れば、ご指摘の通り教育・子育てに課題があります。 今後、教育を充実させ、待機児童・未入所児童のお子様を無くすことで、岸和田市に行けば安心して子どもを預けられるという環境を作ることで、若い世代を他の市町村から呼び込み、あるいは留まっていた取組みが、岸和田市の最大の成長戦略と思っています。いただくご意見は、それぞれの立場からの、それぞれの正しいご意見と思ふますが、市・教育委員会は、このような思いで、今回の計画案を提示させていただきました。引き続き、市民の皆さまと協議し、意見を出し合い、より良い計画案を作っていければと思っています。 今後、情報発信の仕方、何を不安に思われて説明会に参加されているのか等、ご意見の汲み取り方については、工夫いたします。再編が実施されるまでに、抱えられた不安の解決を、できるだけ図り、広く伝えられるよう頑張っていきたいと思ふます。施設数が減り、規模が大きくなることで発生する課題については、他市の事例を研究すること等で課題解決に努めます。
11	11/13(土)	桜台市民センター	説明会が終わっていないのに、東光幼稚園の計画はなぜ進んでいるのか。旭・太田幼稚園同様に、延ばすべきではないか。	東光幼稚園については民間園での開園のため、今回の市民説明会の時期では、スケジュールを延ばす必要はないと考えています。あくまでも計画案であり、再編を進めるにあたっては、市議会で承認をいただく必要があり、最終的には市議会での判断になります。旭幼稚園・太田幼稚園は、市立による認定こども園のため市議会へ議案として提案する必要があり、工期もかかることから、今回の市民説明会が終わってからでは令和6年の開園に間に合わないため、両幼稚園の開園時期を延長したものです。 なお計画案という段階であり、あくまでも予定ということで周知をさせていただいています。市民の方から反対意見が多くあり、市議会で承認を得られなければ、この計画はストップします。東光幼稚園を希望される保護者の方にも、予定ということで周知させていただいております。
12	11/13(土)	桜台市民センター	この計画が保護者にどれだけ伝わっているのか。勝手に進められているという印象がある。各家庭に対して案内を送る予定はないのか。地元・住民の合意はどうお考えか。	市立幼稚園及び保育所の個別計画についても、小・中学校の適正配置につきましても、あくまでも計画案です。予定と言われたら決まった事と捉えてしまうというご意見もあれば、具体的に内容を示されないと賛否の出し様がないというご意見もあります。こういったことから、岸和田市としては具体的に計画案をお示しし、それについて市民説明会でご意見をいただき、しっかりと判断をしていくという考え方である、とご理解をいただきたいと思います。 また全ての市民の方の賛同がなければ、計画が進められないのでしょうか。現在の日本社会は間接民主制が敷かれています。市民説明会でいただいたご意見に対する回答をホームページを通じ、市民の方に広く公表・周知しまして、いただいたご意見の中から、計画案を変える所は無いのかを判断し、市議会と議論し、決定していきたいと考えています。市民説明会で広く意見を聞いた上で、より良い計画案を作っていきたいと考えています。